

# タマシギ

*Rostratula benghalensis* (Linnaeus)

## チドリ目タマシギ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

### 選定理由

水田、休耕田、湿地などに夏鳥として渡来して繁殖する鳥であるが、近年の湿地の減少や水田の乾田化などにより、生息個体数が減少している。

### 形態

全長24cm。翼長12～14cm。体重140～180g。雌の方が雄よりも色彩が派手で、体も大きい。雄は頭から背にかけて全体に褐色で、肩から背には黄褐色の線があり、肩から胸には太い白線がある。側面には褐色を帯びた黄色の斑点があり、腹は白い。目の周囲と頭中央線は黄褐色。雌は目の周囲が白色で顔から胸が赤褐色、背から側面は緑がかったブロンズ色。幼鳥は雄に似る。

### 国内分布

関東地方、北陸地方以南で局地的に繁殖し、大部分のところでは留鳥。北海道、山形県、宮城県でも記録がある。

### 県内分布

夏鳥として渡来し、大聖寺川下流、柴山潟、河北潟、七尾西湾などで繁殖例や観察例がある。渡りの時期には他の地域でも観察されている。奥能登の生息状況は不明である。河北潟では越冬例もある。

### 生態

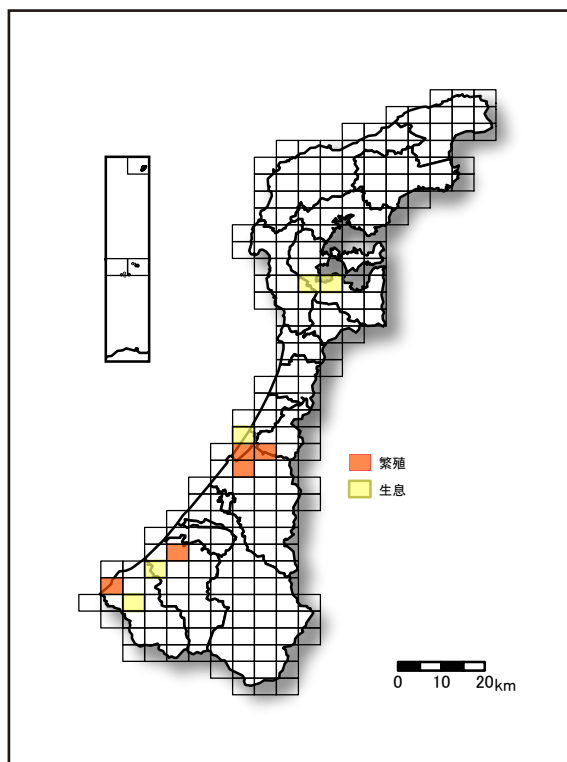
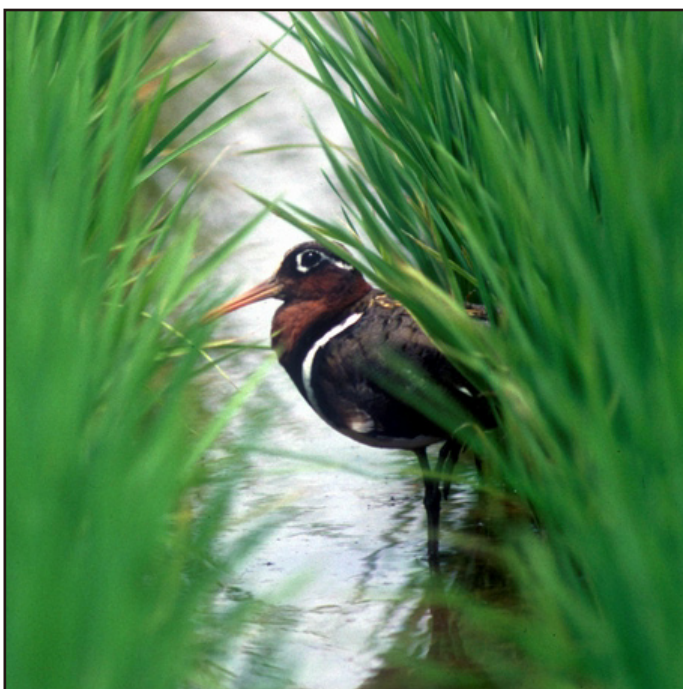
水田、休耕田、湿地などに生息し、イネの株と株の間や地上の草陰などに巣をつくる。一腹卵数はふつう4個で、約19日で孵化する。餌は昆虫、ミミズ、草の種子などである。繁殖期の夜間に雌が「コー、コー、コー」とよくとおる声で鳴く。繁殖期に一妻多夫のつがいをつくる。

### 生息地の条件

水生昆虫や小動物などの餌が豊富にある湿地や水田に生息、繁殖する。

### 生存の危機

近年の平地や里山の開発や水田の乾田化により、生息に適した湿地や水田が減少している。(A, B)



県内の分布